

番組審議会  
第 700 回  
2026年1月19日

■審議会の構成 出席委員数 10名

委員長 音好宏  
副委員長 江澤佐知子  
委員 川喜田尚 田中東子  
谷本歩実 洞口依子  
長嶋有二 関辰郎  
水無田気流 目加田説子

TBSテレビ 龍宝社長  
合田専務  
井上取締役  
三城コンテンツ戦略局長  
荒井報道局長  
保津SDGs企画部長  
池田制作プロデューサー(報道局)  
坂田総合演出(コンテンツ制作局)  
藤田編成考查局長  
浜崎カスタマーサクセス室長  
満田番組審議会事務局長

■議事概要

1. 審議事項

(1) 「～地球を笑顔にするTV～噛みしめTIME」

2025年11月16日(日) 13:30~14:54放送

(2) その他

2. 事務局報告事項

## (1) 視聴者からの声

## (2) 次回審議会の議題及び日程

### 【審議番組について】

(「～地球を笑顔にするTV～噛みしめTIME」2025年11月16日放送)

TBS系SDGsプロジェクト「地球を笑顔にするWEEK 2025年秋」期間中に放送したこの番組は、朝の情報番組「THE TIME」で総合司会の安住紳一郎アナウンサーが田植えや稲刈りを通して農業の魅力を伝えてきた「出張！安住がいく」から派生したSDGsキャンペーン特番。

2025年はコメが注目された一年。「食」の未来を考えたい、と農業・漁業・畜産業など日本の一次産業を支える生産者に注目。JNN各局から地元の生産者情報をアイデアとともに募集し、全国12の地域から“眠れるお宝食材”を発掘。生産者の努力や情熱を伝えるのは、JNNが誇る名物アナウンサーたち。スタジオでは食材を使った絶品料理が登場、持続可能な日本の食と生産の未来を考えた。

制作は全社横断チームで行った。報道局・情報制作局・コンテンツ制作局の主に2020年以降入社の社員がディレクターを務め、ベテランの総合演出が若手の育成を担った。

### 【委員の主な意見】

- 「いただきます」「ごちそうさま」を言えない人が増えている時代、命をいただくという意味を改めて感じさせてくれた。スーパーに並ぶ食材しか見たことのない子どもたちにとっては、切り身が海で泳いでいるイメージ、その中で食材を一から知ることができたのは非常によかったです。
- ジビエのブロック、私たちが「命をいただいている」というところを暗示させるシーンも含めて作られていた。バラエティと情報と報道のバランスがよい番組だった。
- 鶏が卵を産む、生殖の一場面を尊厳の対象として映し出す一方、鹿を捕獲してから自ら解体するまでの過程を丁寧に描く。尊厳性について多くの人の共

感を得るという内容に意義深さを覚えた。

- TBSがSDGsにいち早く取り組み継続していることを高く評価。最大よりも最良のメディアというところを出していくことが、CTVの中で生きていく一つのあり方なのだろうと改めて感じた。
- スマート養殖やソーラーシェアリングなど、新しいテクノロジーと農業・漁業・畜産業の関係などがしっかり示されていて興味深かった。またショート動画の時代、12のネタの一つ一つがコンパクトなのはすごくいいと思った。
- グルメリポート番組を日曜の午後やっているという観点で見ると、淡泊な演出に見えた。また食材が12品あったが個々が駆け足でネタ数が多いと感じた。8品くらいにして、面白い生産者に肉薄してほしかった。
- 例えば自然薯は作るのが大変だと聞いている。フォーカスしすぎると骨太のドキュメンタリーのようになってしまうのであんぱいが難しいが、一つ一つの品が作られる過程を大事に撮ってもよいのではないかと思って見た。
- 長良川の漁師さんが、調理で出たごみを庭に捨て循環させ「一つのアクションで未来が変わる」と話していたのが印象に残った。もう少し深掘りし、生産者たちの哲学に踏み込んでくれたら、面白い以上に感動できたのでは。
- 生産者の個性や面白さが印象的で、この番組の生命線はそこだと思った。だからこそ生産者の濃さに比して、スタジオの食リポの情報のなさ、薄さが気になってしまった。
- スタジオゲストの人選に必然性を感じなかった。せっかくJNN各局の優れたアナウンサーがリポートしているので、スタジオに呼んで裏話を伝えてもらったら生産者の人柄や苦労がもっとわかつたのでは。

- スタジオで試食するシーンが何度かあったが、集めた12の食材で一つしつかりした料理を作るなどして、試食は一回でよかつた。
- 一番気になったのは、取り上げた食材がどれも高級食材ばかりだったこと。食品価格が高騰している中、日常の身近な食材が含まれていてもよかつた。
- 日本は食料自給率が非常に低い。生産に関心を持った人がどうすれば自分も携われるのか、アドバイス的な情報提供があればSDGsの「将来のアクション」につながったのでは。

#### 【局からの回答】

- 多岐にわたるSDGsのテーマの中でも限定的にはなるが、生産者の苦労や愛情を取り上げ、食材を知って貰うことによって、大切に食べるという当たり前のことなど、行動を促すきっかけづくりになればと思いながら制作した。
- ネタの数に関しては、若手ディレクター全員にそれ相応のことを経験してもらおうと思った結果、12本になった。  
一般的なグルメ番組と違うのは、生産者のストーリー性を大切にしたところ。ただ12本というネタ数の多さで、そぎ落とされてしまったエピソードもあった。ご指摘のように、例えば作り方をもう少し説明したらよかつたのでは、といった反省は残っている。